

原爆死没者追悼平和祈念館
運営企画検討会資料
(第 19 回)

- 資料 1 令和 2 年度の事業実施状況 (広島)
- 資料 2 令和 2 年度の事業実施状況 (長崎)
- 資料 3 令和 3 年度の事業計画 (広島)
- 資料 4 令和 3 年度の事業計画 (長崎)
- 資料 5 入館者からの感想や意見・要望等 (広島)
- 資料 6 入館者からの感想や意見・要望等 (長崎)

第19回運営企画検討会	資料1
書 面 開 催	

令和2年度の事業実施状況

広島祈念館 1頁～11頁

令和2年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成14年8月）以来、令和3年3月末までの入館者数は、4,662,231人となっており、同期間の平和記念資料館入館者（24,479,594人）の19.0%である。【過去3年間の月ごとの入館者数を10ページに記載】

（参考）年度別入館者数

区分	入館者数	1日平均 入館者数	対前年比	外国人（内数）	
				入館者数	対前年比
平成30年度	433,912人	1,195人	108.0%	159,312人	136.8%
令和元年度	379,163人	1,142人	87.4%	145,233人	91.2%
令和2年度	69,413人	280人	18.3%	4,195人	2.9%
累計	4,662,231人		—	—	—

※ 外国人入館者数とは、総合案内において外国語版のリーフレット又はチラシを配布した人数を集計している（平成24年度から集計開始）。

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染予防及び拡散防止のため、4月1日から5月31日まで、12月14日から令和3年2月7日までの2回（61日と54日 計115日）臨時休館した。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

広島県内各市町での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月6日に原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口を設置している。

また、被爆者証言ビデオの収録や被爆体験記執筆補助事業などの機会をとらえ、登録申請を呼びかけた。さらに、著名人の遺影登録に際し、マスコミに情報提供するなど遺影登録の周知を図った。

（参考）年度別登録状況

区分	原爆死没者数（登録数）	対前年比
平成30年度	677人	94.8%
令和元年度	769人	113.6%
令和2年度	650人	84.5%
累計	24,439人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

被爆者の高齢化に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、新規収集が困難な状況となったが、広報紙への掲載やマスコミへの情報提供のほか、被爆者証言ビデオ収録などの機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけるとともに、体験記執筆補助事業（平成18年度開始）により収集に努めた。また、新聞等に掲載された被爆体験記の記事を確認し、発行者等へ照会して、寄贈又は購入の依頼を行った。

収集した被爆体験記については、より一層の活用を図るため、データベース化、イメージデータ化及びテキストデータ化を推進し来館者の利便性の向上を行った。

(参考) 年度別被爆体験記収集状況

区分	体験記収集数（編）					図書収集（冊）		公開数 （編） （注1）
	H7 厚生省	H17 厚生省	H27 厚生省	独自収集	計	購入	寄贈	
平成30年度	0	0	0	33	33	140	71	39
令和元年度	0	0	-5	74	69	142	83	139
令和2年度	0	0	-17	56	39	126	85	219
累計	81,205	11,778	11,329	3,435	107,747	2,127	3,186	147,642

(注1) 被爆体験記として収集後、内容を整理・精査し登録対象外とする場合があり、また収集年度と公開年度が異なる場合があるため、各年度の収集数と公開数は一致しない。

(参考) 被爆体験記のデータベース化等の進捗状況

区分	編数	割合
館内公開体験記数	147,642	—
データベース化（注2）	140,995	95.5%
イメージデータ化（注3）	107,683	
テキストデータ化（注4）	2,547	

(注2) データベース化とは、来館者が閲覧を希望する被爆体験記を容易に検索できるよう、被爆体験記に書かれている情報に基づき、被爆者の氏名、年齢、所属及び被爆場所、登場する人物、場所及び時期などを、職員が分類・整理し、システムに登録する作業をいう。

(注3) イメージデータ化とは、館内公開している被爆体験記を、展示端末画面で容易に閲覧できるように、被爆体験記をスキャンしてシステムに登録することをいう（平成24年度から実施）。

(注4) テキストデータ化とは、被爆者が手書きで書いた被爆体験記を読みやすく、また、将来、多種多様なキーワードにより検索が可能となるよう、被爆体験記を文字入力する作業をいう（平成24年度から本格的に実施）。なお令和2年度2,547編 令和元年度2,288編 平成30年度1,943編

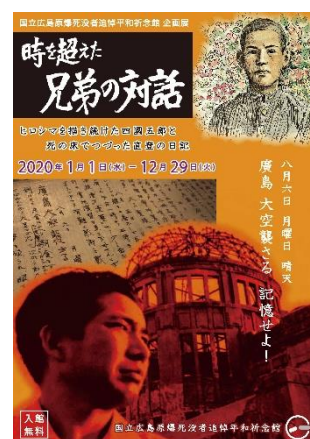
4. 企画展の開催

情報展示コーナー（地下1階）において、毎年定めるテーマに沿って企画展を開催する。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映する。また、映像資料はインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸出を行っている。

- (1) 「時を超えた兄弟の対話 ―ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづいた直登の日記―」

期間：令和2年1月1日(水)～令和3年2月28日(日)

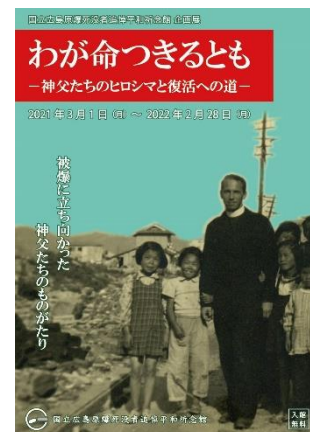
概要：画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに全て捧げた四國五郎（1924-2014）。そのきっかけは、最愛の弟・直登（1927-1945）が原爆により18歳で短い生涯を閉じたことだった。企画展では、被爆当日から亡くなる前日まで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の追悼文や作品を紹介しながら、時を超えた2人の対話を再現した。（3面シアター映像約30分、四國直登の日記（現物）と四國五郎実作品約20点、館長論文及び四國五郎の追悼記、作品集等）



- (2) 「わが命つきるとも ―神父たちのヒロシマと復活への道―」

期間：令和3年3月1日(月)～令和4年2月28日(月)

概要：被爆当日、イエズス会の幟町教会（爆心地から約1.2キロ）にいた4人の外国人神父たちの被爆後の状況を克明に描いた体験記等を通して、ヒロシマの復活への道をたどる。



5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲がありながら高齢等により体験記の執筆が困難な広島県内の被爆者を対象に、職員による聞き取りと代筆を行った。(平成18年度開始)

(参考) 年度別実施状況

区分	応募数	実施者数	辞退数 (体調不良等)
平成30年度	9人	8人	2人
令和元年度	13人	11人	3人
令和2年度	9人	6人	4人
累計	185人	160人	27人



被爆当時の地図などを見ながら被爆体験を聞き取りします

※ 平成30年度及び令和元年度の実施者には前年度応募者1名ずつ含む。

6. 被爆者証言ビデオ(国外在住被爆者)制作

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国外における収録対象者の確保が困難であったことから、制作できなかった。

(参考) これまでの年度別制作状況

区分	国・地域	実施人数
平成30年度	韓国(1人)、アメリカ(5人)	6人
令和元年度	アメリカ(5人)	5人
令和2年度	実施していない	0人
累計	韓国(34人)、台湾(4人)、アメリカ(18人)、アルゼンチン(1人)、オーストラリア(1人)、カナダ(2人)(うち1人は日本語、英語で2本収録)、ブラジル(5人)、メキシコ(2人)	68人 (68本)

7. 被爆者証言ビデオ（広島県外在住被爆者）制作

被爆者団体等から推薦された被爆者を対象に、長崎祈念館と協力（長崎被爆者6人は長崎祈念館が収録・編集を担当）し、その体験談をビデオに収録（令和2年11～12月）し、編集作業を行った。制作した証言ビデオについては、令和3年4月から館内の体験記閲覧室で公開する。



カメラを前に被爆体験を語ってもらいます

（参考）年度別制作状況

区分	実施人数	収録都道府県
平成30年度	10人	北海道4人、岩手1人、福島1人、東京4人
令和元年度	18人	福島1人、埼玉2人、東京3人、神奈川8人、愛知4人
令和2年度	5人	京都1人、大阪1人、兵庫3人
累計	384人	45都道府県で収録（広島県及び長崎県を除く。）

8. 多言語化対応事業

海外から来館するさまざまな国や地域の人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、令和2年度は被爆者証言ビデオの証言内容を英語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ハンガリー語、ヒンディー語、ポーランド語、ポルトガル語の10言語に翻訳した。（証言ビデオの字幕翻訳言語数は23言語）

また、被爆体験記をノルウェー語に翻訳した。（被爆体験記の翻訳言語数は24言語）
（多言語化の詳細を11ページに記載）

9. 被爆体験記の朗読事業

収集した被爆体験記を活用し、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを語り継ぐことを目的に平成 17 年度から実施している。修学旅行生や市内の学校などを対象とした朗読会、毎月第 3 日曜日に開催する定期朗読会、8 月 5 日、6 日の朗読会、市内近郊への出前朗読会も開催した。また、全国で朗読会を開催したいとの要望に応えるため、朗読セットを国内 11 団体へ貸し出しした。



広島市内での朗読会

※ 新型コロナウイルスの影響により、来日する外国人が減少したことから英語での朗読会は当面開催を中止している。

(参考) 年度別開催状況

(単位：回)

区分	広島市内	定期	集中開催 8月5日~6日 5月3日~5日	原爆展	英語朗読 (英語定期 含む)	計
平成 30 年度	125	24	13	国内 5 海外 1	51	219
令和元年度	94	22	13	国内 2 海外 2	41	174
令和 2 年度	32	14	4	開催なし	※ 0	50

10. 被爆体験伝承者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを日本全国の次世代に語り継ぐために、「被爆体験伝承者」と「被爆体験記朗読ボランティア」を、平成 30 年度から国内の学校等へ無料で派遣し、被爆体験伝承講話及び被爆体験記朗読会を実施している。令和 2 年度から「被爆体験証言者」の派遣を開始した。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染対策を行った上で全国に 250 件（証言講話 28 件 伝承講話 202 件 朗読会 20 件）派遣した。この派遣による講話及び朗読会において延べ約 3 万 3 千人の児童・生徒等が聴講した。

(参考) 地域別派遣件数

(単位：件)

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
件数	1	4	48	24	120	30	17	6	250

(参考) 申込団体別派遣件数及び聴講者数

(単位：件・人)

区分	小学校	中学校	高等学校	大学	自治体	その他	計
件数	135	68	31	0	10	6	250
聴講者数	12,216	11,214	6,918	0	2,337	219	32,904

1.1. 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修

被爆体験伝承者等の海外派遣を行わなかったため、語学力の向上を図るための研修については実施しなかった。

1.2. 修学講習の実施

被爆体験の次の世代への継承と平和意識の高揚を図るため、修学旅行などで広島を訪れた児童・生徒等を対象に、被爆者による被爆体験講話等を内容とする講習を追悼平和祈念館研修室で行った。

(令和2年度実施状況)

区 分	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	29	9	4	15	57
聴講者数	606	257	120	280	1,263
1団体あたりの平均聴講者数	20.90	28.56	30.00	18.67	22.16

1.3. 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的とする多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催することとしていたが新型コロナウイルスの影響で開催できなかった。

(参考) 年度別開催状況

区分	開催都市		参加者
平成30年度	東京都（新宿）	平成30年7月24日	28人
	東京都（秋葉原）	平成30年7月25日	22人
令和元年度	東京都	令和元年8月21日	25人
	名古屋市	令和元年8月22日	13人
令和2年度	開催していない		

14. インターネットによる情報提供

広島祈念館の事業内容を、ホームページで広く情報提供するとともに、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオを、順次、ホームページ（平和情報ネットワーク <http://www.global-peace.go.jp/>）に掲載し情報発信した。

また、スマートフォンやタブレット端末等の普及、多言語による情報発信、セキュリティ強化等に対応するため、ホームページを全面リニューアルした。

（参考）ホームページ公開状況

11 インターネットによる情報提供		グローバルネットワーク（平和情報ネットワーク）掲載本数及び編数 ※長崎分含む											
区分	被爆体験記						証言ビデオ						
	H28年度 まで	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	総掲載編数	H28年度 まで	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	総掲載本数	
1	日本語	516	48	277	26	49	916	554	25	32	27	39	677
2	英語	108		25	20		153	142	8	6	6	1	163
3	中国語	79		23	13		115	140	7	9	2		158
4	韓国・朝鮮語	79		23	12		114	143	8	17	2	1	171
5	アラビア語	9					9	5		1	1	1	8
6	イタリア語	9					9	8		2		1	11
7	インドネシア語	9					9		5				5
8	ウルドゥー語	9					9	5					5
9	オランダ語	6		3			9	6					6
10	ギリシャ語	6				3	9						0
11	クロアチア語						0	1		1	1	1	4
12	スウェーデン語	9					9	3					3
13	スペイン語	9					9	8	2	2		2	14
14	スロベニア語						0	3	1	2			6
15	タイ語	9					9	3					3
16	ドイツ語	9					9	25	2	7	4	3	41
17	ノルウェー語			5		4	9						0
18	ハンガリー語		2				2		1	4	1	2	8
19	ヒンディ語	9					9	3		1		1	5
20	フィリピン語	9					9		3				3
21	フィンランド語	6					6						0
22	フランス語	9					9	22	7	3	3	1	36
23	ベトナム語	6		3			9						0
24	ポーランド語	9					9		1	1		1	3
25	ポルトガル語	9					9	7		2		1	10
26	マレー語	9					9	3					3
27	モンテネグロ語		2				2						0
28	ロシア語	9					9	8	1	1	1		11
	合計	941	52	359	71	56	1,479	1,089	71	91	48	55	1,354

（参考）平和情報ネットワーク総アクセス件数

区分	総アクセス件数
平成30年度	5,780,021
令和元年度	5,526,862
令和2年度	3,978,834

15. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本計画の策定

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点からシステム・展示更新の視点も含めた「情報システム機器更改・展示整備基本計画」を長崎祈念館とともに策定した。

16. 来館者増加対策等

感想ノート等により、来館者の声に耳を傾け、来館者サービスの向上を図るとともにあらゆる機会を捉え、広報紙、ホームページや新聞等のマスコミを通じてPRに努めた。

17. 新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた取り組み

臨時休館：2回 115日

令和2年 4月 1日から5月31日まで（61日）

令和2年12月14日から令和3年2月7日まで（54日）

開館期間中は次のとおり対策を講じた

- ・南側出入口を入口専用、北側を出口専用とし、一方通行の動線とした。
- ・入館の際、検温、手指消毒を実施。
- ・展示端末の稼働を38台から20台に減らし、ヘッドホンは使用禁止とした。
タッチパネルを操作する際に手指消毒を実施。

第19回運営企画検討会	資料2
書 面 開 催	

令和2年度の事業実施状況

長崎祈念館 1頁～11頁

令和2年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成15年7月）以降、令和3年3月末までの入館者数は、1,901,161人（一日平均192人）となっており、同期間の長崎原爆資料館入館者数（11,758,490人）の16.2%である。

（参考）年度別入館者数

年 度	入館者数（1日平均）	対前年比	外国人（内数）	
			入館者数	対前年度比
平成30年度	139,105人（384人）	103.8%	35,194人	—
令和元年度	147,467人（474人）	106.0%	40,111人	114.0%
令和2年度 ^(注)	57,917人（194人）	39.3%	9,440人	23.5%
累計	1,901,161人（250人）	—		

（注）令和2年度は、令和2年6月1日～令和3年3月31日までの入館者数

※ 外国人入館者数とは、館内において外国語版のリーフレットを配布した人数の集計（平成30年度から集計開始）

※ 令和2年度は、上記注釈でも示したとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止の措置で年度当初より2か月間臨時休館となった。国外への渡航制限、県外への往来自粛などの国や自治体の措置も加わり、入館者は大幅に下降した。詳細は19. その他（館内利用）及び20. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組みの項参照

2. 原爆死没者の氏名・遺影の収集状況

原爆死没者を追悼し、被爆の実相を後世に伝えていくために、氏名・写真（遺影）を募集し、情報システム登録のうえ館内公開している。市、全国の原爆対策担当部署、マスコミ等を通じての周知により、遺族等から、登録を受け付ける。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

（参考）年度別登録状況

年 度	登録された原爆死没者数	対前年比
平成30年度	343人	120.4%
令和元年度	329人	95.9%
令和2年度	232人	70.5%
累計	9,930人	—

※減少傾向であるが、関連団体に周知を行い、登録数の増加に努めている。

3. 被爆体験記等の収集・整理状況

被爆の実相を後世に伝えていくために、被爆手記・体験記を収集し、情報システム登録やデータ化等の整理のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。マスコミ等を通じての周知、募集により、本人や遺族等から寄贈を受けるとともに、高齢等で執筆困難な場合は執筆補助を行なう。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

(参考) 実績 (収集状況)

年 度	収集数	対前年比
平成 30 年度	58 人分	37.0%
令和元年度	124 人分	213.8%
令和 2 年度	48 人分	38.7%
累 計	1,504 人分	—

4. 企画展の開催

テーマを定め、祈念館が所蔵する被爆体験記を選定し、英語、韓国・朝鮮語、中国語に翻訳を行い、遺影・手記閲覧室に企画展コーナーを設けてゆっくりと閲覧できるように計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン企画展を実施した。

(参考) 企画展実績

○第 10 回被爆 75 周年企画展「残したいあの日の記憶-執筆補助体験記より-」

期間：令和 2 年 8 月 9 日～令和 2 年 12 月 9 日

概要：令和元年度に執筆補助を実施し収集した体験記の中から、5 編を選出し、期間内の毎月 9 日に 1 編ずつ、ホームページ上に掲載（現在も掲載中）

5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲を持ちながらその執筆が困難な被爆者を対象として聞き取りと代筆を行い、体験記の収集増に努めた。

(参考) 実績 (収集状況)

年 度	収集数
平成 30 年度	6 人
令和元年度	56 人
令和 2 年度	6 人
累 計 (平成 17 年度から)	81 人

※ 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大



執筆補助の様子

防止対策を講じた上で実施。自治体などと協力し、収集に努めている。

6. 被爆者証言映像等の制作

被爆の実相を後世に伝えていくために、地元放送局等に業務委託して、被爆体験に係る証言映像を制作・収集し、情報システム登録のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。被爆者団体等の協力・紹介を得て、制作・収集の増に努めている。

(参考) 被爆者証言映像実績 (制作・収集状況)

年 度	収録数	対前年比
平成 30 年度	15 人 (うち海外 8 人)	100.0%
令和元年度	20 人 (うち海外 7 人)	133.3%
令和 2 年度	10 人 (うち海外 4 人)	50.0%
累計	485 人 (うち海外 71 人)	—

※海外内訳

韓国 12 人、アメリカ 25 人、ブラジル 20 人、カナダ 5 人、ボリビア 3 人、メキシコ 1 人、ペルー 1 人、アルゼンチン 2 人、パラグアイ 1 人、オランダ 1 人

7. 被ばく医療情報の提供

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野)の協力のもと、世界の放射線事故情報、放射線Q&A等を含めた被ばく医療情報を館内や「グローバルネット」で広く提供するほか、館内の交流ラウンジにおいて、被爆者を対象とした健康講話(「被爆者健康講話」。被ばく医療研究の成果として、高齢となる被爆者の健康維持に資する情報を親しみやすいテーマにして提供)を行っている。平成 24 年度からは、館内での講話に加え、長崎県、五島市の協力を得て、多くの被爆者がいる長崎県内離島部(五島市)とインターネットで結んで講話を中継する取り組みを実施し、多数の参加を得ている。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

(参考) 実績 【被爆者健康講話】

年度	回数	利用者数		
		長崎会場	五島会場	合計
平成 30 年度	10 回	413 人	133 人	546 人
令和元年度	9 回	439 人	119 人	558 人
令和 2 年度	0 回	—	—	—
累計 (H20 年度開始)	118 回	4,059 人	1,218 人	5,277 人

※全平均受講者数 44.7 人/回

8. 平和へのメッセージ収集、整理状況

平和への行動に参加してもらうため、来館者自身が文字や絵によるメッセージを作成し、祈念館が収集、公開する。メッセージは祈念館で長期間保存され、いつでも館内で閲覧ができる。館内のタブレット端末や用意されたカードに自由に記入するものと、画用紙などに記入して祈念館に持参するものがある。

(参考) 実績

年度	収集登録数
平成30年度	4,219件
令和元年度	3,762件
令和2年度	11件
累計	89,196件



タブレット端末でのメッセージ入力
(情報コーナー2)

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メッセージコーナーは3月29日～3月31日のみ開放。自筆式のカード記入は中止。

9. 海外原爆展の開催

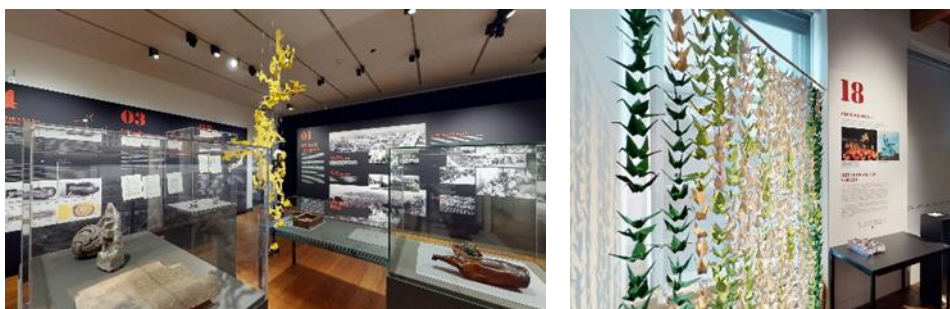
「原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設」としての祈念館の位置づけ、特に長崎祈念館の「国際協力及び交流」機能に鑑み、被爆の実相を広く世界に伝えるため、被爆60周年という節目の年にあたる平成17年度から実施している。令和2年度はオランダで実施したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、被爆者の渡航は中止し、展示のみ実施。会期中、オランダ政府のロックダウン指示により臨時休館したため、開催期間の延長を行った。

また、広島・長崎の両市が主催してアメリカ（ハワイ）で実施したヒロシマ・ナガサキ原爆展に、当館で製作した被爆体験記集英語300冊を提供した。

○開催場所

日本博物館 シーボルトハウス（ライデン市）

○広島市長、長崎市長から挨拶文をいただくなど両市の協力が得られ、開催期間中、3,281人の方に来場いただいた。



展示会場の様子

(参考) 開催実績 (過去3年)

年度	会場	場所	期間	来場者数
平成30年度	ポルト市庁舎	ポルト市 (ポルトガル共和国)	10月1日 ～11月30日	7,458人
令和元年度	バレンシア カレッジ イーストキャンパス	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月7日 ～10月11日	3,000人
	オーランド公共図書館	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月14日 ～11月2日	2,600人
令和2年度	日本博物館 SieboldHuis	ライデン市 (オランダ王国)	R2年9月25日～ R3年2月14日	3,281人

※これまでの開催実績 【開催国・都市数】13か国・22都市

アメリカ4都市、スペイン1都市、ベルギー1都市、マレーシア1都市、オランダ2都市、トルコ2都市、ロシア1都市、アイスランド2都市、ニュージーランド2都市、カザフスタン3都市、ドイツ1都市、ベトナム1都市、ポルトガル1都市

【来場者数】120,531人

10. 収集資料の多言語化

当館外国語ネイティブスタッフにより、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心に被爆体験記、証言映像等収集資料の翻訳や吹替えを行い、簡易製本化や情報システムへの登録のうえ、館内での公開のほか、「グローバルネット」等で広く世界に発信・紹介している。

(参考) 翻訳状況

【体験記】

年度	翻訳数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
平成30年度	5	5	5	3	18
令和元年度	5	5	5	0	15
令和2年度	5	5	5	0	15
累計	169	169	169	44	551

※「その他」フランス語7編、ドイツ語4編、イタリア語3編、スペイン語5編、ポルトガル語3編、ロシア語6編、ベンガル語1編、カザフ語1編、マレー語2編、アラビア語2編、ベトナム語3編、ハンガリー語2編、モンテネグロ語2編、オランダ語2編、ヒンドゥ語1編

【被爆者証言映像】 ※（ ）内数は字幕数

年度	翻訳吹替え・字幕数（編）				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
平成30年度	4(2)	4(2)	4(2)	0	12(6)
令和元年度	3(3)	3(3)	3(3)	0	9(9)
令和2年度	3(3)	3(3)	3(3)	2(2)	11(11)
累計	53(21)	53(21)	53(21)	36(18)	195(81)

※「その他」オランダ語5編、ロシア語8編、フランス語8編、ドイツ語8編、アラビア語3編、ベトナム語2編、ポルトガル語2編

11. 平和ボランティア育成外国語講座の開催

国際交流事業の一環として、祈念館や被爆建造物等の外国語による案内や平和関連国際会議等において通訳の出来るボランティアを育成するため、毎年、英語、韓国・朝鮮語、中国語の各講座を実施している。専門的・実践的な知識の習得に力を入れており、より高度なレベルでの対応ができるよう育成を行った。令和2年度は7月～11月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策（アクリル板の設置等）を講じた上で、開催した。

(参考) 実績

年度	開催講座（ ）：クラス数	受講者（修了者）数
平成30年度	英語（1）、韓国・朝鮮語（1）、中国語（1）	28人
令和元年度	英語（1）、韓国・朝鮮語（2）、中国語（2）	40人
令和2年度	英語（1）、韓国・朝鮮語（2）、中国語（2）	24人

※ 令和2年度修了者内訳 英語8人、韓国・朝鮮語10人、中国語6人

※ 修了者は（公財）長崎平和推進協会の平和ボランティアとして登録され、依頼により当館や資料館の案内、国際会議での対応等に派遣される。

〈ボランティア登録者数〉英語76人、韓国・朝鮮語9人、中国語16人



語学講座受講者（英語）
フィールドワークの様子

12. 被爆体験記朗読事業の実施

被爆者が高齢化し、被爆者の声を直接聴くことが難しくなっていく中、被爆体験を継承していくあらたな方策の一つとして平成23年度から事業を開始した。収集した体験記を

有効に活用していくという側面を有し、朗読ボランティア育成と朗読ボランティアの派遣を柱とする。平成24年度と平成25年度の2年間で朗読ボランティア育成講座を実施・完了した。講座修了者のボランティア登録を受け、平成26年度から祈念館内での定期朗読会の開催、市内・近隣の小中学校等への派遣朗読会の実施等、本格的に活動を行い、さらに朗読ボランティア「永遠の会」を結成し、平成27年度は「永遠の会」を組織化。世話人会を結成し、代表、副代表を選出。事務局と連携しながら、自主的な運営のもと活動を広げている。平成30年度には、第2期生育成講座を実施・完了した。

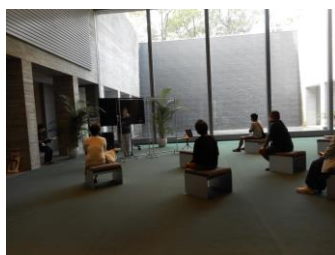
令和2年度は館内での常駐朗読および「9日を忘れない」朗読会は、8月中旬～12月および3月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策（アクリル板の設置等）を講じた上で、開催した。また、第16回定期朗読会をオンラインで開催した。

(参考) 実績 メンバー構成 (令和3年3月末現在) 72人 (女性65人、男性7人)

年 度	常駐朗読	定期朗読会 (*9日を忘れない)	国内朗読派遣	その他 (朗読劇など)
平成30年度	178回	18回 (15回)	57回(学校・団体他)	1回(映画フォーラム)
令和元年度	174回	14回 (11回)	98回(学校・団体他)	1回(Love&Peace Message)
令和2年度	88回	4回 (3回)	21回(学校・団体他)	

※ 「9日を忘れない」は交流ラウンジで開催

〈活動の様子〉



アクリル板を設置しての常駐朗読
(交流ラウンジ)



第16回定期朗読会
(交流ラウンジ：オンライン開催)

13. 家族・交流証言者等の派遣事業の実施

被爆の実相、平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から「家族・交流証言者」および「被爆体験記朗読ボランティア」を全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催した。国内外の数多くの児童、生徒、一般市民が聴講した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外への渡航は中止した。

(参考) 【長崎市外派遣】実績

年度	全件数	長崎市外			
		家族・交流	被爆体験記	体験講話	聴講者数
平成30年度	102件	66件	36件	—	21,678人

令和元年度	177 件	101 件	76 件	—	33,587 人
令和2年度	56 件	42 件	13 件	1 件	9,226 人
累計 (H30 年度～)	335 件	209 件	125 件	1 件	64,491 人

〈派遣の様子〉



被爆体験記朗読会
(6/25 時津町立時津東小学校)



家族交流証言講話
(9/10 埼玉県立鴻巣女子高等学校)



被爆体験講話
(12/4 雲仙市立千々石中学校)

【海外派遣】

年 度	場 所	期 間	件 数	聴講者数
平成30年度	ポルトガル共和国 (リスボン市・ポルト市・カスカイス市・エストリル市)	9月29日～ 10月4日	9 件 ※家族・交流証言講話 4 件 体験記朗読会 5 件	425 人
令和元年度	マレーシア共和国 (クアラルンプール市)	10月11日 ～10月14日	6 件 ※家族・交流証言講話 3 件 体験記朗読会 3 件	359 人
令和2年度	実施無し			

14. 被爆体験伝承者等派遣事業語学研修の実施

来日外国人に対して、また国外においても講話や朗読が行えるようスキルアップを図るため、被爆体験の家族・交流証言者および被爆体験記朗読ボランティアについて、語学等の研修を実施した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる研修を実施した。

(参考) 被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修 ※オンラインによるグループ指導

【中・上級者向けレッスン】

- ・受講者 6 人
- ・実施内容 令和3年2月～令和3年3月 隔週1回 計4回実施

【初級者向けレッスン】

- ・受講者 10 人
- ・実施内容 令和3年2月～令和3年3月 隔週1回 計4回実施

15. ピースネット事業

祈念館への訪問が難しい遠隔地の児童・生徒に向けて、被爆の実相を伝えることにより平和を希求する心を育むことを目的に、インターネットによる会議システムを利用して、祈念館と現地をつなぎ被爆体験講話を中心とした平和学習を実施している。

現在、被爆者が直接出向くことなく現地に居ながらにして遠隔地と交流ができる特性を活用して、祈念館と海外の大学、自治体等との海外ピースネットも実施している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、修学旅行で長崎に来ることができない学校を対象にオンライン修学旅行として実施したほか、長崎市内や長崎県内の学校に対しても実施した。

(参考) 実績 ※ () 内数は海外との数

年度	回数	利用団体数
平成30年度	23(6)回	26団体
令和元年度	21(3)回	21団体
令和2年度	38(0)回	38団体
累計(平成16年度から)	417(41)回	345団体

〈ピースネットの様子〉



2020.9.27 岸和田市立城内小学校
(学校から撮影したピースネット写真)



2020.01.21 早稲田大学高等学院中等部

16. 修学講習(被爆体験講話)の実施

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐという当館の理念を実現するため、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。

(参考) 実績

年度	回数	利用者数
平成30年度	97回	2,376人
令和元年度	153回	4,040人
令和2年度	62回	1,489人
累計(平成20年度から)	1,613回	41,271人

※会場収容人数は最大 40 人。講話前後には追悼空間での平和集会を実施する学校も増えている。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6 月～8 月の期間は収容人数を半分の 20 人以下で実施した。

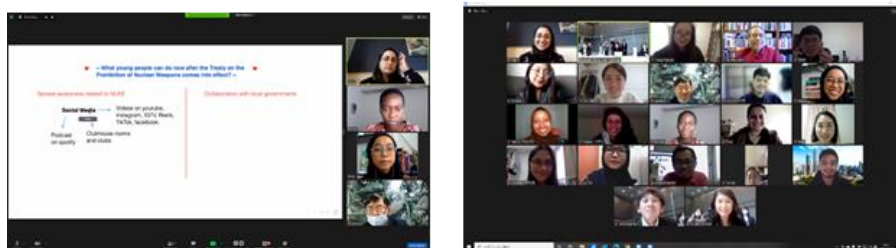
17. 国際協力・交流プログラムの実施

平成 21 年度のマレーシア海外原爆展の開催を契機としてアジアの若者との連携ができたことから、長崎祈念館が特徴とする国際協力・交流にかかる平和ネットワークの構築とその広がりをめざし、各国の若者が被爆地・被爆者を知る平和学習、長崎で平和活動に取り組む若者との意見交換等の交流、被ばく医療を含めた国内外の専門家によるシンポジウムなどのプログラムを実施している。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外からの招聘を中止し、オンラインで開催した。

(参考) 実績

年度	国名/招聘	期間
平成 30 年度	マレーシア 7 人、韓国 6 人、中国 6 人	11 月 14 日～11 月 20 日
令和元年度	マレーシア 7 人、韓国 5 人	2 月 7 日～2 月 14 日
令和 2 年度	海外からの招聘無し	
累 計 (平成 22 年度～)	マレーシア 72 人、韓国 60 人 インドネシア 1 人、中国人 24 人	—

※令和 2 年度は、前年度参加者による「フィードバックセミナー」をオンラインで実施。9 か国 20 名が参加し、この一年間の取組みについて発表、意見交換を行った。



〈セミナーの様子〉

18. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本構想の策定

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点から、来館者に対する新たなサービスの提供・利便性の向上について、展示方法や設備の改修等も含めた「情報システム機器更改展示整備基本計画」を広島祈念館とともに策定した。

19. その他（館内利用）

・学校関係者、旅行代理店に対し、平和集会や献花式での「追悼空間」の利用を促しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者60人以下（通常の半分の人数の利用制限）、職員による対面での説明・参加者による合唱、平和への誓いなどは行わないなどの対策を講じた上での利用とした。

（参考）実績 【追悼空間利用】※平成19年度から統計開始。

年 度	件 数 (学校数)	利用者数
平成30年度	351件	19,491人
令和元年度	411件	24,139人
令和2年度	212件	11,038人
累計(平成19年度～)	2,014件	114,057人

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流ラウンジで実施している「核兵器廃絶市民講座（核兵器廃絶長崎連絡協議会主催）」の開催等、多くの市民が参加するようなイベントはほとんどが会場変更や中止となった。

20. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

- ・臨時休館：令和2年4月1日から5月31日まで（前年度2月29日から引き続きの休館）
- ・主催事業の中止・延期：被爆体験記の朗読会、被爆者健康講話などを中止した。
- ・再開館時の取組：
 - ①各入口にサーマルカメラ（検温）・消毒液設置
 - ②館内一方通行
 - ③館内配布物（チラシ等）の撤去（リーフレットのみ配布）
 - ④折鶴コーナー、平和へのメッセージカード記入等、不特定多数人がさわるものの撤去
 - ⑤追悼空間の椅子の利用禁止、交流ラウンジの配置換え（椅子と椅子の距離をとるなど）
 - ⑥資料館との連絡通路（地下2階）の閉鎖
 - ⑦総合案内にアクリル板設置等

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（原爆資料館比較）

平成30年度

令和元年度

令和2年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比	区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比	区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H30 4月	8,791	48,051	18.3%	108.8%	107.8%	H31 4月	9,666	51,854	18.6%	110.0%	107.9%	R2 4月		990	—	—	1.9%
5月	15,084	95,146	15.9%	95.0%	92.1%	R1 5月	16,758	104,208	16.1%	111.1%	109.5%	5月			—	—	—
6月	13,243	51,824	25.6%	95.3%	89.2%	6月	15,501	56,386	27.5%	117.1%	108.8%	6月	915	3,688	24.8%	5.9%	6.5%
7月	10,979	34,051	32.2%	106.9%	76.4%	7月	11,592	39,242	29.5%	105.6%	115.2%	7月	3,193	8,143	39.2%	27.5%	20.8%
8月	14,793	62,110	23.8%	108.2%	86.0%	8月	14,958	65,575	22.8%	101.1%	105.6%	8月	5,312	16,753	31.7%	35.5%	25.5%
9月	12,363	52,685	23.5%	106.6%	93.8%	9月	13,418	53,959	24.9%	108.5%	102.4%	9月	4,582	22,389	20.5%	34.1%	41.5%
10月	16,186	92,334	17.5%	101.0%	96.7%	10月	22,711	108,372	21.0%	140.3%	117.4%	10月	9,944	55,718	17.8%	43.8%	51.4%
11月	15,970	82,758	19.3%	120.4%	109.8%	11月	18,465	89,317	20.7%	115.6%	107.9%	11月	15,548	64,191	24.2%	84.2%	71.9%
12月	7,427	38,962	19.1%	89.3%	98.0%	12月	9,091	48,433	18.8%	122.4%	124.3%	12月	9,234	33,364	27.7%	101.6%	68.9%
H30 1月	6,753	35,301	19.1%	98.6%	111.7%	R2 1月	7,880	32,848	24.0%	116.7%	93.1%	R3 1月	1,519	4,171	36.4%	19.3%	12.7%
2月	7,576	37,307	20.3%	106.0%	107.0%	2月	7,427	29,734	25.0%	98.0%	79.7%	2月	1,609	4,700	34.2%	21.7%	15.8%
3月	9,940	47,818	20.8%	110.2%	97.1%	3月		12,719	—	—	26.6%	3月	6,061	19,680	30.8%	—	154.7%
合計	139,105	678,347	20.5%	103.8%	96.2%	合計	147,467	692,647	21.3%	106.0%	102.1%	合計	57,917	233,787	24.8%	39.3%	33.8%
累計	1,695,777	10,832,056	15.7%	—	—	累計	1,843,244	11,524,703	16.0%	—	—	累計	1,901,161	11,758,490	16.2%	—	—

第19回運営企画検討会	資料3
書面開催	

令和3年度の事業計画

広島祈念館 1頁～3頁

令和3年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業計画

1 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開【資料1、P1参照】

広島県内各市町並びに鳥取県、島根県、岡山県及び山口県の被爆者対策担当窓口での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月6日に原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口を設置し、新規登録を呼びかける。

2 被爆体験記等の収集・整理・公開【資料1、P2参照】

被爆継承担当部署や広島平和記念資料館と連携し、また、広報紙への掲載やマスコミへの情報提供のほか被爆者証言ビデオ収録など、あらゆる機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけ収集に努める。

収集した被爆体験記は、逐次データベース化を行うとともに、イメージデータ化及びテキスト化を推進し館内で公開する。

3 企画展の開催【資料1、P3参照】

情報展示コーナー（地下1階）において、毎年定めるテーマに沿って企画展を開催する。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映する。また、映像資料はインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸し出しを行う。

- (1) タイトル：「わが命つきるともー神父たちのヒロシマと復活への道ー」
- (2) 場 所：情報展示コーナー（地下1階）
- (3) 期 間：令和3年3月1日(月)～令和4年2月28(月)

被爆当日、イエズス会の幟町教会（爆心地から約1.2キロ）にいた4人の外国人神父たちの被爆後の状況を克明に描いた体験記等を通して、ヒロシマの復活への道をたどる。（3面シアター映像約30分の上映、神父たちの被爆体験記や被爆した祭具等の展示）

4 被爆体験記執筆補助【資料1、P4参照】

被爆者の高齢化に対応し、体験記の執筆が困難な被爆者を対象に、聞き取り・代筆を行い、被爆体験記の収集増加を図る。

聞き取り予定人数：5人（一般公募）

5 被爆者証言ビデオ（広島県外在住被爆者）制作【資料1、P5参照】

被爆体験を次の世代へ継承するため、県外在住の被爆者を対象に、その体験談をビデオに収録し、館内の体験記閲覧室で公開する。（平成15～18年度に引き続き、平成21年度から実施）

- (1) 収録者数：関東、中部、関西、中国、四国、九州地方在住の被爆者20人程度
- (2) 収録者：各都道府県の被爆者団体からの推薦に基づき証言者をお願いする。

6 多言語化対応事業【資料1、P5参照】

海外から来館するさまざまな国や地域の人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、多言語化を推進する。

- (1) 被爆者証言ビデオ

証言内容について、中国語、韓国・朝鮮語、の2言語に翻訳する。この他、被爆者証言の世界化ネットワークとの連携により、英語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ハンガリー語、フランス語、ポーランド語、ポルトガル語、ヒンディー語に翻訳する。

翻訳した証言内容から字幕入り証言ビデオを作成し、これまで翻訳している言語と合わせ、23言語の証言ビデオを館内公開する。

- (2) 被爆体験記を、フィンランド語に翻訳し、館内公開する。

7 被爆体験記の朗読事業【資料1、P6参照】

被爆体験記を朗読することにより、特に次代を担う子どもたちへ、被爆体験の継承を図るため、広島市内やその近郊において被爆体験記朗読会を開催する。また、朗読セットを貸出しする。

- (1) 修学旅行生を対象とした朗読会や出前朗読会、定期朗読会の開催
- (2) 朗読セット貸出し：20団体

8 被爆体験伝承者等の派遣【資料1、P6参照】

被爆体験証言者、広島市が養成している被爆体験伝承者及び上記7の被爆体験記の朗読を行うボランティアの国内外への派遣を行う。なお、実施にあたっては、広島市と調整を図るとともに、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と協力・調整を行い、また、関係機関への周知を図る。

伝承者等派遣予定件数：約500件

9 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修【資料1、P7参照】

上記7の被爆体験記の朗読ボランティア及び上記8の被爆体験伝承者について、語学等の研修を実施する。

10 広島平和学習セミナーの開催【資料1、P7参照】

平和学習を目的とする多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催する。

(1) 開催地：東京都・横浜市・大阪市・神戸市

(2) 開催時期：令和3年9月（予定）

11 インターネットによる情報提供【資料1、P8参照】

広く国内外に情報発信するため、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオについて、順次、ホームページへ掲載する。また、収集した図書については、随時、ホームページの図書検索画面に追加し、紹介する。

12 情報展示システムの保守・管理及び機器更改等に係る改修業務【資料1、P9参照】

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行う。

また、次期（令和5年）システム機器等更新のための調査研究を行う。

第19回運営企画検討会	資料4
書面開催	

令和3年度の事業計画

長崎祈念館 1頁～8頁

令和3年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業計画

1. 原爆死没者の氏名・遺影の収集状況【資料2、P1参照】

○原爆死没者の氏名・遺影の登録を推進する。

今年度は、長崎市と協力・調整して、葬祭料申請の際、ご遺族の許可を得て、死没者の情報提供をしてもらうこととする。また、長崎県に協力依頼して、県内の各自治体に遺影申込書に配布してもらうこととする。

○原爆死没者の氏名・遺影の登録に際し、被爆者（特に身寄りのない方など）から問い合わせがっている生前登録について検討する。

2. 企画展の開催【資料2、P2参照】

○引き続き、テーマを定め、祈念館が収集所蔵する被爆体験記などの中からテーマに沿った体験記を選定し、昨年度に引き続きオンライン上で公開し、特設コーナーを設置する。

○令和3年度被爆体験記企画展

タイトル未定（期間未定）

3. 被爆体験記執筆補助【資料2、P2参照】

○引き続き、体験記の執筆が困難な被爆者を対象として、職員が聞き取りと代筆を行ない、館内の手記・体験記閲覧室やオンライン上で公開する。

○今年度は長崎県原爆被爆者援護課の協力を得て、長崎市を除く県内6,000人の被爆者の方に、体験記寄贈ならびに執筆補助、証言映像への協力依頼の呼びかけを実施する。

聞き取り予定人数：20人

4. 被爆者証言映像（国内・国外）の制作【資料2、P3参照】

○引き続き、被爆者団体等の協力を得て、国内及び国外で被爆者証言映像を収録し、館内の手記・体験記閲覧室やオンライン上で公開する。

○広島祈念館と連携し、関東・神戸在住の長崎被爆者について収録を行う。

○国外はこれまで、北中南米での収録を行ってきたが、他地域（欧州など）でも収録する。

(1) 収録数：九州地方在住被爆者5人程度、関東・神戸在住の被爆者3人程度（国内）
北中南米地域3人程度、欧州地域1人程度（国外）

(2) 収録者：被爆者団体等からの推薦、又は現地調査に基づき、収録者を確保する。

5. 被ばく医療情報の提供【資料2、P3参照】

○引き続き、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の協力のもと、被爆者を対象とした被爆者健康講話を実施する。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催不可だったが、今年度は、オンライン配信の取り組みなどを検討する。また、祈念館で実施した講話を録画編集し、長崎の地方放送局などを通じて、長崎県内地域を中心に

配信する。また編集した映像のDVD化を行い、貸し出し等を実施する。

開催回数：未定

○引き続き、平和情報コーナー1において、開館20周年に向けて、展示の在り方について検討する。

6. 海外原爆展【資料2、P4参照】

今年度は、次のとおり候補地と調整を行っている。ただし、昨年同様、新型コロナウイルス感染状況によっては、被爆者の渡航は難しいと思料されるため、オンライン講話などの検討を行っている。

【令和3年度海外原爆展開催候補】

候補地	ビュルツブルグ市（ドイツ）
候補地選定の経緯	① 長崎市とビュルツブルグ市は市民友好都市提携を結んでおり、長崎に対する理解が深く、理解が得られやすい。 ② 核保有国が存在するヨーロッパで開催することで、核廃絶への機運を高めていくことができる。
概要	① ビュルツブルグ市（人口約13万人） 展示などを行う場所として、シーボルト博物館を考えている。 ② ビュルツブルグ市、シーボルト博物館を開設しているシーボルト協会が協力予定。
開催時期	2021年9月初旬～11月中旬（予定）

7. 被爆者証言映像、手記・体験記の多言語化【資料2、P5参照】

○被爆の実相と被爆者の声を広く世界に発信するため、引き続き、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心として多言語化（翻訳・吹替え・字幕）を実施する。

○当館で翻訳した被爆体験記をより活用するため、広島市・長崎市が企画実施するヒロナガ原爆展会場（開催地の言語：英語）で配布してもらおうよう、ヒロシマ・ナガサキ平和アピール推進委員会へ依頼及び資料の提供を行う。

8. 平和ボランティア育成外国語講座【資料2、P6参照】

○すでに被爆の実相の知識を有する平和案内人を対象に実施することで、即戦力のある外国語ボランティアの育成をする。

○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン講座を実施する。

9. 被爆体験記の朗読事業【資料2、P6参照】

○新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、感染防止対策を講じた上で、長崎市内外小中学校等への派遣、来館者を対象とした館内での朗読を実施するとともに、厚労省収集の体験記を読み込み、館内常駐朗読のための素材の開拓（編集作業も含む）を進める。

○定期朗読会については、昨年同様、オンライン配信で開催する。その後ホームページ上

で、朗読の様子動画を掲載し、より多くの方に視聴してもらえようとする。

- (1) 館内朗読会：①定期朗読会年1回（祈念館交流ラウンジ等：オンライン配信）
②「9日を忘れない」毎月9日11:00～11:30 祈念館交流ラウンジ
- (2) 派遣朗読会：長崎市内外において、学校や一般の依頼に基づき、派遣して朗読会を開催する。
- (3) 常駐朗読会：毎週土・日及び祝日10:00～16:00
祈念館交流ラウンジにて、感染防止対策を講じた上で実施

10. 家族・交流証言者等の派遣および語学研修の実施【資料2、P7・8参照】

- 新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、感染防止対策を講じた上で、長崎市が養成している家族・交流証言者の国内派遣を行う。上記の被爆体験記の朗読ボランティアや被爆者ご本人も同様に派遣する。
- 渡航が難しいと思われる国外については、オンライン講話などの方法を検討する。
- また、国外とのオンライン講話実施等に伴い、英語ネイティブによる語学研修を実施し、スキルアップを図る。さらに今後、海外からの来館者に対して英語で実施できるよう、同様に語学研修を実施する。
- 円滑な派遣を実施するために、インターネットによる派遣申込システムを構築する。
※国内での派遣申込数：63件（令和3年5月10日現在）
※都道府県別数は別紙のとおり。

11. ピースネット事業の実施【資料2、P9参照】

- 被爆者の高齢化が進むなか、長崎に居ながら遠隔地に被爆者の声を届けることができるインターネット会議システムの特性を活かし、引き続き、北海道や東北地方などの長崎に来ることが難しい遠隔地の学校等を中心に、海外の大学や海外原爆展のネットワークを通じて海外の都市とも積極的に実施する。
- 昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、修学旅行に来られない地域の学校、長崎市内や長崎県内の平和学習にも利用してもらおうよう周知を行う。
 - (1) 国内：30か所程度（長崎市内・県内：10か所程度、県外20か所程度）
 - (2) 海外：2か所程度

12. 国際協力・交流プログラムの実施【資料2、P10参照】

- 引き続き、国際的な平和ネットワークの構築を目的として、おもにアジアの学生などを招へいして行う国際協力・交流プログラムを実施する。メインプログラムとして、一昨年度実施した「Youth Conference in Nagasaki」を、長崎市が養成するピースボランティアを司会として活用するなど長崎市やRECNAとも連携し、さらに多くの若者らが参加する会議として実施する。
- 国際協力・交流プログラム
開催時期：令和4年2月頃を予定

参加者：マレーシア、韓国、中国、国内の留学生などとオンラインでセミナーを実施する。

13. 【新規事業】被爆の実相の伝承のオンライン化・デジタル化事業

○被爆資料等の追加調査や新しい資料の収集を行い、若い世代がリアリティを持って学ぶことができるオンライン化を通じた、デジタル教材、マニュアルの作成及び教育人材育成を、学術的な知見を保有する研究機関である長崎大学核兵器廃絶センター（RECNA）へ委託した。（令和3年4月23日に契約済）

14. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本構想の策定事業【資料2、P10参照】

○記念館開館20周年に向けての展示内容等を検討する。

これらの事業を実施するにあたり、新型コロナウイルスの影響により、実施が困難な場合も考えられるが、実施規模の縮小や時期の変更、オンラインでの実施等できる限りの調整を行って、事業をすすめていくこととする。

以上

	都道府県名	件数	家族・交流証言講話	被爆体験記朗読会	被爆体験講話
1	北海道	4	4		
2	青森県	2	2		
3	岩手県	0			
4	宮城県	0			
5	秋田県	1			1
6	山形県	0			
7	福島県	1	1		
8	茨城県	1	1		
9	栃木県	0			
10	群馬県	0			
11	埼玉県	0			
12	千葉県	2	2		
13	東京都	3	1	1	1
14	神奈川県	0			
15	新潟県	0			
16	富山県	0			
17	石川県	0			
18	福井県	0			
19	山梨県	0			
20	長野県	2	2		
21	岐阜県	2	2		
22	静岡県	1	1		
23	愛知県	2	2		
24	三重県	2	2		
25	滋賀県	0			
26	京都府	2	2		
27	大阪府	8	3	4	1
28	兵庫県	2	2		
29	奈良県	0			
30	和歌山県	0			
31	鳥取県	0			
32	島根県	0			
33	岡山県	0			
34	広島県	1	1		
35	山口県	1	1		
36	徳島県	0			
37	香川県	0			
38	愛媛県	1	1		
39	高知県	0			
40	福岡県	2	1		1
41	佐賀県	4	2	2	
42	長崎県	17	5	9	3
43	熊本県	1	1		
44	大分県	0			
45	宮崎県	1			1
46	鹿児島県	0			
47	沖縄県	0			
48	海外	0			
	計	63	39	16	8

第19回運営企画検討会	資料5
書 面 開 催	

入館者からの感想や意見・要望等

広島祈念館 1頁～2頁

広島祈念館における入館者からの感想や意見・要望等

1. 概 要

平成14年9月から「感想ノート」を置き、入館者に感想や意見等を自由に記入してもらっている。なお、感想ノートは出口前の机に設置し、入館者記入後に職員が鉛筆及び机をその都度消毒清掃を行っている。

通常は、外国語（英語、韓国・朝鮮語、中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語等）の記述が多く見受けられるが、令和2年度は、2回の休館及び海外からの旅行者激減により、外国語での記述はほとんどなかった。

2. 主な意見・要望等

(1) 施設について

- 入館者が少ないことが残念。（一部抜粋）

(2) 展示について

- 展示はきれいすぎて実感が伝わらない。（一部抜粋）

3. 感 想

- 木内みどりさんのナレーションが心にしみます。“NO More Hiroshima”の想いを胸に平和を更に世界へ発信したいと思いました。素晴らしい展示です。ありがとうございました。
- お盆の帰省の途中、立ち寄りました。今年の1月被爆者の父が亡くなりました。貴館に名前と写真が載っており、たいへん有難く思いました。永久の平和を祈ります。
- 外国の方に音声英語版がわたせばいいのに せっかくの映像に興味を示されていなかったです。
- 四国五郎さんの絵・日記を初めて知りました。弟の日記を指針に生涯平和の心を伝えていった五郎さん、私たちに伝えてくれてありがとうございます。原爆反対 核兵器禁止!!世界みんな仲良しに。
- 広島で亡くなられた方々の名前、遺影を映していた所に、イスがあると良かった。亡くなられた方々に哀悼の意を捧げるのに。3時間ほど立ちっぱなしは大変だと思う。
- 広島に住んでいるからこそ、いつも目にする街が変わって（ちがって）見えました。四国直登さんの日記 忘れかけた日常こそ何度でも目にする機会が必要だと心から思いました。敵車にアンパンを抱えて突進するなんて、自爆順番を待つという想像

を超える状態はイメージできないくらいコワイことです。ありがとうございます。

- 今年 2 月に亡くなった母の遺影を登録したところ、被爆後すぐになくなった姉も登録してあることを知りました。翌日に捜し連れ帰った母が登録したことが確認できました。三姉妹そろった遺影を見ることができて感激しました。被爆 2 世として、もう少し詳しく話を聞いておけばと残念でなりません。これからも、度々訪れて当時のことを勉強したいです。

入館者からの感想や意見・要望等

長崎祈念館における入館者からの感想や意見・要望等

記帳式の「感想ノート」を置き、入館者に感想や意見等を自由に記入してもらっていたが、新型コロナウイルス感染拡大の観点より、撤収しているため、入館者からの感想や意見・要望等はいただいている。

なお、令和3年度については、投書箱を設け、入館者から感想や意見・要望等を頂くよう検討している。